

くどう歯科医院通信

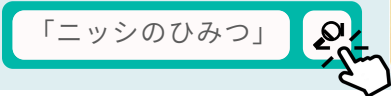
寒さもひとしお身にしみる頃となりましたが、皆様、どうぞご自愛ください。

日本歯科医師会と人気アニメーションのコラボレーション配信をご紹介します。

日本歯科医師会は11月8日より、フジテレビ系列「めざましテレビ」で全国地上波テレビシリーズ化されている「紙兎ロペ」とのスペシャルムービー「ニッシのひみつ」を日本歯科医師会の公式HPで公開を開始しました。

※『ニッシ』=日本歯科医師会

日本歯科医師会についてや日本の歯科医療の歴史、歯に関する雑学等を動画や会話形式などで説明した面白いコンテンツが沢山紹介されています。ぜひ、チェックしてみてください。



お口健康・毎日元気 いきいきデンタル

口腔ケアでインフルエンザの感染予防対策!?

寒い冬の季節、インフルエンザやコロナ等の感染症が流行します。

インフルエンザのウイルスには、ウイルス粒子内の加核蛋白質複合体の抗原性の違いから、A・B・Cの3型に分けられます。このうち、冬に流行する季節性のものがA型とB型です。中でもA型は大変異により数十年に一度大流行(パンデミック)を起こします。

インフルエンザは高齢者や子供、免疫力が低下した患者さんにとっては、脳症や肺炎等の合併症や重症化によって命にかかわる危険もあります。まずは、かからないように予防することが大切です。

予防方法はうがいよりも歯磨き!?

感染症は『細菌』もしくは『ウイルス』が原因により発症します。両者は感染のメカニズムが異なります。

細菌感染の場合、粘膜に付着するだけで炎症を起こし、のどが痛くなったり熱を出す恐れがあります。

ウイルス感染の場合、粘膜に付着しただけでは発症しません。ウイルスが細胞に入り込むことで発症します。

インフルエンザウイルスの表面には細胞内に入り込むために『カギ』と『ハサミ』のような役割をする2種類の酵素があります。

インフルエンザウイルスは喉などの粘膜に付着し、『カギ』のような役割の酵素が細胞壁をこじ開け、細胞内に入り増殖します(感染)。そして『ハサミ』の役割をする酵素が隣の細胞へ放出。体内で感染が拡大していきます。



特に気を付けたい、これらの酵素を活性化してしまうのが歯周病菌です。口腔内に歯周病菌が多いとインフルエンザウイルスに感染しやすくなってしまいます。

この歯周病菌はプラーク内に棲みつくので、薬で撃退したり、うがいだけでは除去するのは難しいため、定期的にしつかりと歯磨きをしてプラークごと除去することが効果的です!

特に寝たきりの高齢者は、合併症の肺炎予防のためにも口腔内を清潔に保つことが大切です。セルフケアだけよりも歯科衛生士によるプロフェッショナルケアを行うと予防へも一層効果的になります。

インフルエンザ脳症とは?

インフルエンザ脳症とは、インフルエンザウイルスの感染をきっかけとして生じる急性脳炎です。インフルエンザ脳症にかかる頻度は多くはありませんが、後遺症が残ったり生命にかかわったりすることもある合併症です。3~13歳くらいの子供に多く、主に発熱から48時間以内に起こります。

インフルエンザによって起こる免疫異常で、急速に神経障害や意識障害を起こします。インフルエンザウイルスが脳に入り込み発症するわけではありません。ウイルスに対抗しようとした体内の免疫が脳の組織を攻撃してしまうことによって起こります。

注意したい症状は、異常言動・行動、痙攣、呼びかけに対して反応が薄くなったり、物事を正しく理解できないといった意識障害です。このような症状が見られた場合には、すぐに医療機関を受診しましょう。予防策は、インフルエンザにかからないための予防方法になります。

インフルエンザの予防対策

- 室内の湿度・温度の管理 湿度 50~70%
- 十分な睡眠 温度 20~25度
- 適度な運動
- 手洗い・手消毒
- 歯磨き・プロによる口腔ケア
- バランスの取れた栄養摂取
- 流行期間は人込みを避ける
- マスクの着用

年末年始休診日のお知らせ

12/29(日) ~ 1/3(金)

年始は1/4(土)より通常診療いたします